プレスリリース２００９年５ 月１日

＜東海テレビ　かわら版＞

***吉岡忍　ドキュメンタリーの旅***

# 「時代の肖像」シリーズ

## 第 10 回「あやまち」1970 年

## 『ギャラクシー賞』テレビ部門 奨励賞を受賞！

ドラマやドキュメンタリーなど、全国の放送局やプロダクションが制作した優れた作品に贈られる「第 46 回ギャラクシー賞」の選考会がこのほど開かれ、テレビ部門で、東海テレビ制作の「吉岡忍　ドキュメンタリーの旅『時代の肖像』シリーズ第 10 回『あやまち』1970 年」が奨励賞に選ばれました。

「ギャラクシー賞」は、放送批評懇談会が、放送文化の質的向上を目的に 1963 年に設立したもので、テレビ・ラジオ・CM・報道活動の4部門で大賞などが選ばれます。今回は、最終選考を前に、去年 4 月 1 日から今年 3 月 31 日までに放送された作品を対象に選考が行われました。

「時代の肖像」は、東海テレビが50年にわたって放送してきたドキュメンタリーの中から厳選して、去年 4 月から月 1 回、シリーズで12本を放送。永六輔さん、吉岡忍さんが各6話づつナビゲーターを務めました。過去に放送されたドキュメンタリーに、ナビゲーターが実際にかつての現場となった場所や人を訪ねて旅に出かける新撮部分を加えた番組構成。受賞作は、詩と映像で、四日市公害を告発した実験的な番組「あやまち」（1970 年作品）の舞台となった現場を吉岡忍さんが39年後に旅したもので、シリーズ第 10 回となる作品です。

なお、6 月 2 日（火）に行われる「第 46 回ギャラクシー賞」贈賞式にて、東海テレビ制作のドキュメンタリー「光と影～光市母子殺害事件　弁護団の300日～」を含む、2008 年度のギャラクシー賞・テレビ部門　入賞 14 作品の中から、大賞（1 作品）、優秀賞（2 作品）、選奨（10 作品）などが選出される予定となっています。

（作品の内容）

開局50周年番組「時代の肖像」の第10回目。1970年作品「あやまち」。高度成長期、石油コンビナートから排出される煙で、四日市で多くの人たちがゼンソクに苛まれた。ゼンソクの発作があまりに苦しく、自殺者まで出る被害だった。東海テレビには、四日市を追った番組が数多くあるが、その中から、「あやまち」を再放送。この番組のコメントは全編詩。詩人、石垣りんの作品である。詩と映像で、四日市公害を告発した実験的な番組である。その番組の舞台、四日市市磯津と塩浜小学校に、ノンフィクション作家、吉岡忍が旅する。吉岡は、公害病認定患者で、最初に裁判に立ち上がった野田之一さんを訪ね、かつての公害の町磯津を歩く。野田さんは、「公害は終わっていないが、多くの人のために我慢してくれということだから…」と語る。また、塩浜小学校では、当時の校歌は、コンビナートを礼賛する校歌の詩だったが、それが書き換えられていることを知る。番組を見、現場を旅して、吉岡は3篇の詩を作る。全編詩という実験的な番組に、39年後、再び、旅した吉岡が繰り出す詩とは…。

＜放 送 日 時＞　平成 21 年 1 月 11 日（日） 16:00～17:05
＜出　　演＞　吉岡忍　野田之一　石垣りん　岸田今日子
＜ﾌﾟﾛﾃﾞｭｻｰ＞　阿武野勝彦
＜構　　成＞　石井彰
＜ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ＞　鈴木祐司

以上